

神楽坂建築塾発 東日本大震災 被災地生活支援 「縁台プロジェクト」現地報告

齊藤 祐子 (サイト)

皆さまに応援いただいた被災地生活支援活動「縁台プロジェクト」(本誌10月号128頁)では、20台の縁台を製作し、被災地の仮設住宅で役に立てていただくために、9月上旬無事届けられました。鈴木喜一、北田英治、小泉淳子、齊藤と現地から栗駒木材の大場隆博さんとスタッフが現場に立ち会いました。

避難所での暑さと湿気対策のための提案からスタートした「縁台プロジェクト」は、仮設住宅の生活支援へと展開しています。仮設住宅では、集まって住む場所に必要な人のつながり、縁を積極的につくるコミュニティー生成の道具立てとして〈縁台〉は本来の役割を果たしていくはずですが。

暮らしに必要な最小限のものと空間で復興への歩みは踏み出されましたが、まだまだ先の見えない状態でしかありません。〈縁台〉は共有の場所をつくり、新たな活動の場所になります。暮らしをひろげ、ゆたかにしていくための支援を必要としています。

震災から約半年、9月6日に宮城県南三陸町中瀬地区の仮設住宅を訪ねました。地元の栗駒木材のトラックから真新しい木の香りのする20台の縁台が降ろされると、住人が集まりました。久しぶりに晴れた、気持ちのよい気候、連れ立って散歩に出かける人、ボランティアの学生と手仕事を楽しむ人にとぎやかです。家も家財も失い、避難所から仮設住宅に移り、家族だけの場所ができたのは嬉しいと、お年寄り話してくれず。けれど、今になって、いろんなことを思い出す、とも。部屋に閉じこもりがちの生活から、外に出て、まわりの人と話したりする場所が必要になります。人のつながりをどうつくるかは、仮設住宅の最大の課題になっているはずですが。

中瀬地区では、集会所がつかられ、震災前の人のつながりが仮設住宅での暮らしにも活かされています。ボランティアや支援の受け入れ体制も整っています。けれど、敷地も狭く、駐車場と道路しかない仮設や人の集まる場所のない巨大な仮設住宅もあります。集会所や縁台を設置でき、住人が集える場所をつくる必要性を強く感じました。

今回は、82戸の住宅に、20台の縁台を設置しました。決して十分な数とはいえません。より多くの縁台を、より多くの仮設住宅に設

置できるように。今後も活動を展開していきたいと、切実に感じています。

「縁台プロジェクト」の趣旨にご賛同いただけましたら、支援金(1口5,000円)の援助、木材の支給、製作協力など、ご協力をよろしくお願いたします。 さいとう・ゆうこ

●「縁台プロジェクト」支援の会協力メンバー

神楽坂建築塾・栗駒木材・住宅建築編集部

●発起人

平良敬一、鈴木喜一、齊藤祐子、大場隆博、青山恭之、伊郷吉信、大橋富夫、鎌田雅治、神谷啓介、岸 成行、北田英治、高柳鉄平、時森幹郎、永田昌民、檜村徹、三浦正博、南 雄三、藤原成暁

●連絡先

神楽坂建築塾 東京都新宿区矢来町114 〒162-0805  
TEL/FAX 03-3269-1202 Mail ag@ayumi-g.com

●振込先

神楽坂建築塾 三菱東京UFJ 神楽坂支店 普通 0706470  
アユミギャラリー出版部

●支援状況 2011.08.31現在

藤原成暁、鎌田雅治、北田英治、草野律子、鈴木喜一、齊藤祐子、浅葉まゆ美、永田昌民、平良敬一、宮井周平、倉田 綾、杉山裕司、大橋富夫、円満洋介、岸 成行、梶原洋子、大場隆博、神家昭雄、神谷啓介、鈴木和宏、内海秀子、中原早季子、宮 徹夫、大武美智子、有地 訓、小椋和雄、野口 毅、仁科真弘、仁科美穂子、大角雄三、檜村 徹、吉住慶男、齊藤たまこ、長谷川デザイン、小泉淳子、波多野章子

●支援金総額 24万5千円

左：集会所前に設置した縁台で、中瀬地区区長(前列左)と子ども達を囲む

右上：仮設住宅の入り口まわりに置かれた縁台

右下：集会所の室内に設置した縁台で、お年寄りとボランティアの若者が活動する  
写真=北田英治

